



ブルーライトアップイベント

厚生労働省の調査によると、国内の糖尿病患者数は約950万人と推定されています(2012年国民健康・栄養調査)。その半数が65歳以上の高齢者であり、高齢者の糖尿病患者は、475万人ほどいるという計算になります。国民全体で見ても、男性の6人に1人、女性の10人に1人が「糖尿病が強く疑われる」とされており、もはや日本人の国民病と言っても過言ではありません。

11月14日は「世界糖尿病デー」です。この日はインスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日で、糖尿病治療における画期的な発見に敬意を表し、顕彰するために制定されました。この日には、日本全国179か所で著名な建造物をブルーライトアップし、糖尿病の正しい知識を啓発するイベントも行われています。

## つばき会の活動について



—糖尿病と仲良く歩む いきいき人生—



6S病棟 師長 宇高 さとみ



す。松山市内では、松山城やいよてつ高島屋の観覧車「くるりん」がブルーライトアップされており、ご存知の方も多々と思います。当院でも2014年、15年は、患者会である「つばき会」開催時に総合受付前の中庭テラスを使用し、ブルーライトアップイベントを行いました。

「つばき会」は1981(昭和56)年に始まり、松山市の市花である「椿」をモチーフに名前を付けられました。毎年50名近い糖尿病患者さんやご家族が参加されています。医師・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床検査技師・管理栄養士・臨床心理士たちと共に、レクリエーションや糖尿病に関する座談会、食事会など、毎年全国糖尿病週間(日本糖尿病協会が制定する、世界糖尿病デーを含む1週間)のテーマにそって工夫を凝らしながら啓発活動を行っています。

昨年は第36回目となるつばき会を開催することができました。

2016年のテーマは「健康長寿」、標語は「糖尿病と仲良く歩む いきいき人生」でした。患者さん同士でお互いの悩みや成功体験など意見交換を行うことで、気づきもあり、刺激を受けられているようです。つばき会に参加される患者さんの年齢層は60～80代の方が多く、昨年のテーマは高齢者の方々には特にあてはまる内容でした。

今後も糖尿病チームで患者さん一人ひとりに関わり、皆さんが健康長寿で過ごせるようにサポートしていきたいと思えます。

昨年のつばき会の様子



## 当院における

### NST(栄養サポートチーム)の取り組み



NST 回診の様子

今では当たり前になった「チーム医療」は、1997年アメリカのシカゴで中心静脈栄養を管理するために組織されたNSTが始まりです。当院では2004年から準備を始め、2005年1月から全科型NSTが稼働しています。医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、リハビリテーション室スタッフ、臨床検査技師、医療事務員など総

勢25名前後のチームです。

医療の基本である栄養管理とそれに伴う合併症への対応が主な仕事です。糖尿病や肥満など栄養過多も問題ですが、栄養障害によって、病気が発症したり治療効果が上がらなくなったりします。栄養障害がなくても、病気や治療により容易に栄養状態が悪化します。年齢、性別、身長体重、病状から栄養量や水分量などを計算し、適切な栄養経路を選択します。

病棟看護師が栄養嚥下口腔スクリーニングを行い、主治医、看護師、管理栄養士によりNST介入患者を選択します。毎週木曜日の午後に回診し、栄養計画を立てて、次の回診時に評価を行い計画を修正します。病状の変化や合併症発症時には随時対応しています。

外科 部長 河田 直海



月に1回のランチタイムミーティングでは情報交換や症例検討、ミニ勉強会を行っています。この3月で161回目になりました。

院内と関連施設への栄養管理普及を目的に、年に1回ずつ「地域連携NST勉強会」と「地域連携NST講演会」を主催し、半数近くの方が院外から参加していただいています。NST専門療法士教育施設にも認定され、専門療法士養成の一翼を担っています。

生活習慣病や加齢による嚥下障害の増加に伴い、栄養管理はますます重要となってきています。「腸が使えるなら、腸を使い」を基本に、これからも多職種一体となって、院内外の連携を深めながらNST活動に努めたいと思えます。